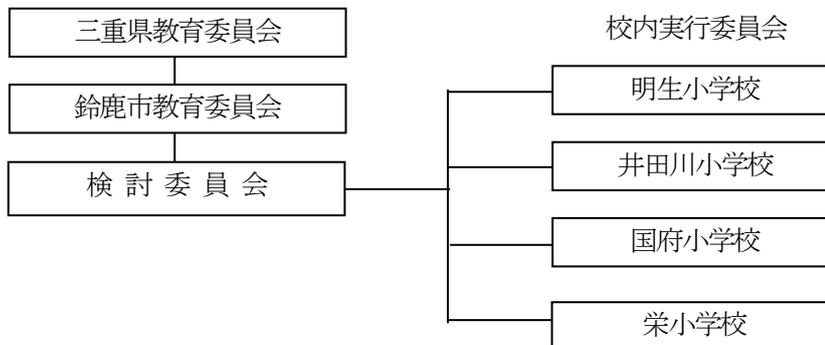


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	三重県
推進地域名	鈴鹿市

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について(事業開始10月1日～)

テーマ1	心を育み、生きる力を培う食育
<p>◆実践中心校の取組</p> <p>《明生小学校》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>栄養教諭による食に関する指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>学年ごとにテーマを設定した取組（例：1年生「給食について」、6年生「旬の野菜を食べよう」）</li> </ul> </li> <li>教職員の指導力向上の取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な食に関する指導について研修し、指導法の向上を図った。</li> <li>公開授業の実施</li> </ul> </li> <li>子どもの実態把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>「早寝、早起き、朝ごはん」がんばりカードの取組（毎月第2週に実施）</li> <li>給食残量調査やがんばりカードの集計結果をもとに、指導に役立てた。</li> </ul> </li> <li>年間計画の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科や総合的な学習の時間と食育・環境との関係を考えてともに、各学年の活動や系統性が分かるものを作成した。</li> </ul> </li> <li>各種の行事 <ul style="list-style-type: none"> <li>「明生祭り」にて、食・環境をテーマに全校行事として取り組んだ。</li> <li>P T A行事（講演会・給食試食会など）や企業の事業（食育体験ツアー）などに参加した。</li> </ul> </li> <li>家庭、地域、企業との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>毎月一回「食育だより」を発行し、家庭へ情報提供や啓発を行った。</li> <li>ゲストティーチャーやボランティアとして地域の方や保護者を招聘し、栽培活動や調理実習等を行った。</li> </ul> </li> <li>委員会活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>給食委員会が毎日主食とおかずの残量を計測し、グラフ化したものを掲示したり、集会で発表したりした。</li> <li>鈴鹿市学校給食センターの見学（給食委員会）</li> </ul> </li> </ol> <p>《井田川小学校》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>栄養教諭を中核とした食育の授業 <ul style="list-style-type: none"> <li>「給食のできるまで」、「栄養のはたらきやバランス」、「朝ご飯の大切さ」など、児童の発達段階に応じた食に関する指導を行った。</li> </ul> </li> </ol>	

- 2 農作物の栽培・収穫、調理の取組
  - ・ 学校近くの畑を借用し、各学年が野菜を栽培した。その際、井田川地区農業委員から畑づくり、種の蒔き方、苗の植え方、その後の栽培方法などの指導を受けた。
    - 低学年・・・大根の栽培、サツマイモや小松菜の収穫、サツマイモ料理、おでん・豚汁等の調理実習
    - 中学年・・・ブロッコリーの栽培、調理実習
    - 高学年・・・ジャガイモの栽培、調理実習
  - ・ 5年生は、「ジャガイモパーティ」を企画し、収穫したジャガイモを使ったお菓子を全校児童に振る舞った。
- 3 委員会活動を通しての啓発活動
  - ・ 給食委員会による、残飯ゼロ作戦（毎日の給食残量を調べ、結果を集会で発表し、残量を減らそうと呼びかけた。徐々に残量は減ってきている。）、「給食週間」等での集会発表
  - ・ 保健委員会による噛むこと、食事や間食、手洗い、衛生等についての集会発表
  - ・ 「早寝早起き朝ごはん」の推進
- 4 総合的な学習の時間や各教科学習による食育授業の取組
  - ・ 農作物の栽培、収穫、調理などの活動（生活科、総合的な学習の時間）
  - ・ 「いただきます」「ごちそうさま」についての学習（道徳）
  - ・ 食生活の見直しや栄養の働き、バランスについての学習（家庭科）
  - ・ 体の成長と栄養の働きについての学習（保健）
  - ・ 地域の地場産物（柿、野菜、畜産）についての学習（社会科）
- 5 食の一句の取組
  - ・ 標語、川柳（全校児童）、短歌（4～6年生）
- 6 家庭・地域への啓発
  - ・ 給食だよりの発行、「ノーテレビデー」、「早寝早起き朝ごはん」運動、学校便り・学級通信による啓発
  - ・ ゲストティーチャーの協力による農作物の栽培や収穫、調理
- 7 企業による出前講座の活用
- 8 児童及び保護者への食に関する意識、実態アンケート

《国府小学校》

1 栄養教諭との授業

- 1年：「朝ごはんのたいせつさ」「トン汁を作ろう」
- 2年：「スイートポテト作り」
- 3年：「おやつの話・みたらしだんご作り」
- 4年：「うれしいおやつ・かしこいおやつ」「スイートポテト作り」
- 5年：「なぜ食べるのか考えよう」「焼きそばを作ろう」
- 6年：「栄養バランスを考えた献立を考えよう」



2 学校給食を通じた取組

- ・ 「食の大切さ」「バランスのとれた食生活」の実践（全校）
- ・ 手洗いチェッカーを使った「手洗い運動」の実践（3年生）
- ・ 週1度のノー残量デーの取組（全校）

3 農作物の栽培と収穫、調理実習等

- ・ 冬野菜作り、サツマイモの収穫、調理
- ・ おやつ作り、焼きそば作り など

4 他教科と関連付けた取組

- ・ フローラハウスの見学・体験（1年生生活科）
- ・ 牛舎見学、雪印乳業出前授業（2年生生活科）
- ・ 「魚のさばき方教室」、カルビー出前授業（4年生総合）
- ・ 非常食体験・サバイバル飯（4年生社会）
- ・ 食糧生産を考える（5年生社会）



5 家庭・地域と連携した取組

- ・ 「早寝、早起き、朝ごはん」標語による啓発活動
- ・ 食育集会：「食事とウンチ」（低学年）、「食事と低体温」（高学年）
- ・ 食育の取組を通信で発信

## 《栄小学校》

### 1 児童の発達段階に応じた給食指導

- 1、2年：「給食室の様子と調理員さんの仕事」
- 3年：「元気な朝を考えよう」
- 4年：「魚の旬と栄養」「野菜の栄養」「元気な朝を考えよう」
- 5年：「成長期と栄養」
- 6年：「食生活と病気」

### 2 体験活動を通じた地域の産物、食文化の理解を促進する取組

- ・ 田植えと稲刈り、大豆の種まきと収穫
- ・ 「しょうゆ物知り博士」による出前授業（日本醤油協会）
- ・ 幼稚園との連携活動として、じゃがいもやたまねぎ等の栽培活動、きな粉作り等の体験



### 3 望ましい食習慣の形成と基本的な生活習慣の確立を目指した取組

- ・ 早寝早起き朝ごはん運動の推進
- ・ ノーテレビデー運動の推進
- ・ 学校医による健康づくり出前授業の実施  
    歯科医：食と歯の健康（全学年）  
    学校医：食事中のテレビ視聴（5、6年生）

### 4 家庭・地域への効果的な啓発を行うための取組

- ・ 学校保健委員会（学校医・歯科医による食育啓発）
- ・ 食育授業、学校医・歯科医による授業の公開
- ・ 家庭教育学級での栄養教諭の話と給食試食
- ・ PTA広報、学校だより、学年だよりの発行と地域回覧



## ◆啓発の取組

### 《鈴鹿市》

#### 1 「食育」は、「知育」「体育」「徳育」、ひいては「生きる力」の基礎となるものであることを、モデル校の実践を通して検証

- ・ 鈴鹿市長を本部長とした鈴鹿市青少年対策推進本部による「早寝・早起き・朝ごはん運動」の取組と連携して、子どもたちの基本的な生活習慣を確立する。
- ・ 平成20年度「子どもの健康を育む総合食育推進事業」における取組の成果と課題から、「食育」を通して問題行動が減少した等、「食育」と「知育」「体育」「徳育」の関係について提案されたため、本事業でその検証をした。

〈知〉・・・「食育」と「学力」との関係（学力調査等の活用）

〈徳〉・・・「食育」と「仲間づくり」との関係（QU調査等の活用）

〈体〉・・・「食育」と「体力」との関係（体力調査等の活用）

#### 2 実践及び検証結果等の周知

- ・ 昨年度の成果及び課題を生かしながら、栄養教諭を中核とした実践中心校（4校）の取組を兼務校へ広げた。実践中心校で取り組んだ内容を、栄養教諭が兼務している学校の実態に合わせながら改良を加え、取組をつなげた（例：早寝早起き楽しい朝ご飯、旬の野菜の働き、残飯ゼロ作戦→好き嫌いがなくなってきた取組、各取組の精選等について）
- ・ 「食育」は、「知育」「体育」「徳育」、ひいては「生きる力」の基礎となるという検証結果等について、保護者や地域住民に行事や会議、研修会等で周知し、連携をしながら「食育」を進めた。

## 具体的計画

### 《鈴鹿市》

「食に関する指導」推進協議会の開催、公開授業の実施

食育にかかる取組の共有・充実を図るために実施したが、栄養教諭を中核とした実践中心校（4校）の取組を市内外の多くの学校へ広げることができ、それらの取組をそれぞれの学校へ持ち帰り、各校の取組に活かしていくことができた。特に、栄養教諭が作成した指導案等は、他校での実践に役立てることができた。

### 《三重県》

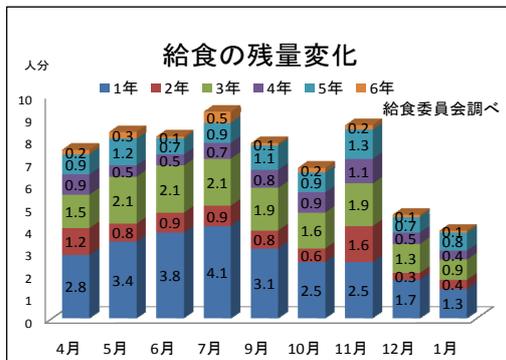
「学校における食育推進講習会」の開催

学校における栄養教諭の効果的な活用や食に関する指導の進め方についての講義と、本事業の推進地域である鈴鹿市及び実践中心校2校による実践発表を行うことで、参加者（県内の小中学校及び特別支援学校教職員、市町等教育委員会食育担当者）への取組支援及び啓発を図ることができた。

## 数字で変化のあった事項について

### 《井田川小学校》

#### ○ 給食の残量変化



※11月のグラフが多くなっているのは、インフルエンザによる欠席者が多かったためである。

### 《国府小学校》

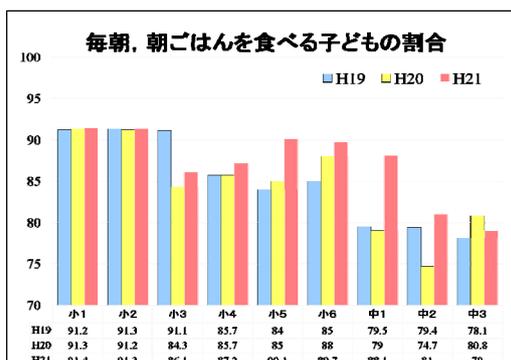
#### ○ 給食ノ一残量デー（毎週木曜日）の取組 月別達成率（%）

	10月	11月	12月
ご飯完食	60	58	82
おかず大完食	63	79	95
おかず小完食	66	92	100
全部完食	42	58	82

※「残量なしのクラス数」の「全クラス数」に対する割合を月別に平均したもの

### 《鈴鹿市》

#### ○ 毎朝、朝ごはんを食べる子どもの割合



## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- ・ 栄養教諭を中心として授業案を考える中で、教職員が専門的な内容について学び、今後にも役立つ知識を得ることができた。
- ・ 栄養教諭との授業により、専門性を活かした知識や調理手順など、子どもたちは理解しやすく、意欲的に取り組むことができた。
- ・ 栄養教諭との連携の継続により、児童の実態に応じた食育の授業実践、集会活動や授業参観で児童や保護者への啓発にも取り組めた。
- ・ 「食育」をキーワードに、「環境」や「栽培」などの活動とも関連させ、様々な取組につなげ広げることで、児童や教職員の活動に対する意欲を向上させることができた。
- ・ 給食残量調査や給食指導の継続により教職員の意識が高まり、残量の減少、片付けの徹底などが図られた。
- ・ 実践力の向上を目指して家庭での活動も取り入れたことで、食を通して家族との関わりが増えたり深まったりした。
- ・ 野菜の栽培・収穫の体験、野菜を使った調理の体験により、季節の野菜への興味・関心が増し、さらに家庭でのコミュニケーション能力をのばすことができた。
- ・ 様々な体験活動にゲストティーチャーやボランティアの方を活用できたことは、学校と地域の連携を深め、子どもたちの様子を家庭や地域へ伝えてもらったり、家庭の声を学校へ届けていただいたりと、保護者の食育に関する意識向上と学校理解につながった。
- ・ 家庭や地域、企業などと連携することで、より充実した取組ができた。
- ・ 子どもたちの健康増進のために、「食」について、学校医、歯科医による授業を受けることができた。その結果、健康面に気を付けること、よくかむことや歯をしっかりと磨くことなどが日常の生活で意識的にできるようになってきた。

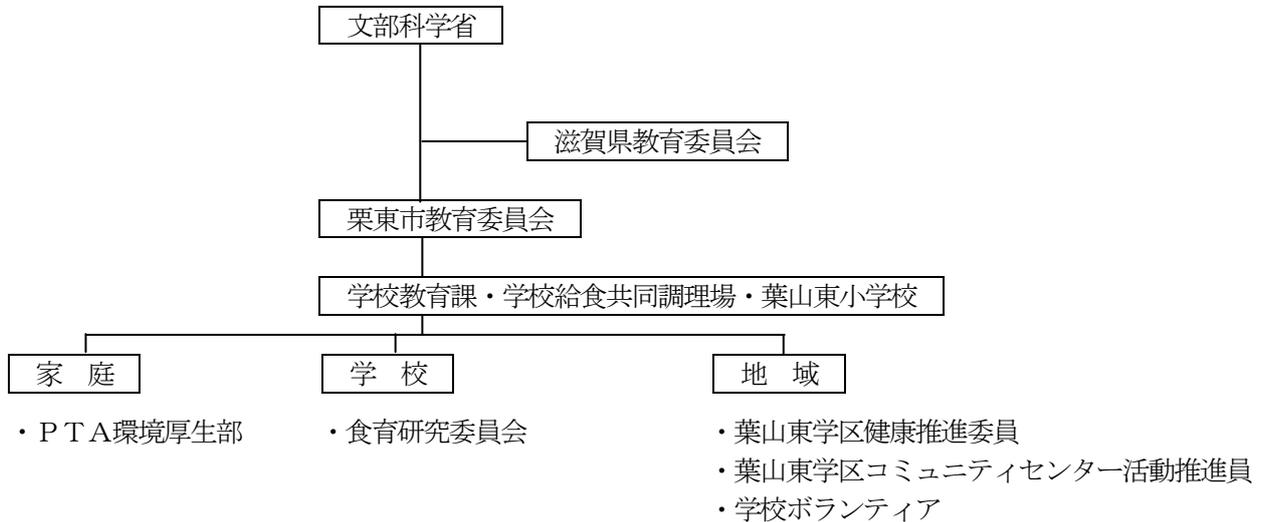
## 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- ・ 複数校を兼務する栄養教諭との連携を密にしていくことが課題。限られた時間の中で、栄養教諭の力を十分に生かせるよう、しっかりとした計画をたてる必要がある。
- ・ 栄養教諭の専門性がより活きるように、担任と栄養教諭の打ち合わせを密にし、役割分担を明確にして授業を行う必要がある。
- ・ 年間指導計画をもとに活動を推進してきたが、計画通りに進まないことがあり、天候などの影響により急な変更を余儀なくされることもあった。学校全体での統一したテーマ、そのテーマをもとにした各学年のテーマと活動内容、活動計画を学校全体で練り上げておく必要がある。そして、継続的・計画的な実践を進めたい。
- ・ 食育は家庭の理解・協力に負うところが大きい。学校で実践したことをもとに、児童が家庭を変えていけるような強い働きかけや啓発が必要である。
- ・ 保健の活動の中でも、食と健康の問題を取り上げてきているが、さらに健康教育と連携した食育を養護教諭とともに進めていく必要がある。

# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	滋賀県
推進地域名	栗東市

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

### テーマ1 教科等における食に関する指導の充実のための取り組み

〔校内での食に関する取り組み〕

#### (1) 食育推進全体計画の作成

昨年度の全体計画の見直しを図り、今年度の全体計画を作成した。

#### (2) 教科等における食に関する指導（実践事例）

年間指導計画に基づき、指導を行った。学級や学年の実態に応じた指導を計画し実施した。

- ・ 1年 学級活動 「歯によいおやつ」  
「たべもののひみつを知ろう」
- ・ 2年 生活科 「やさいはかせになろう」
- ・ 3年 学級活動 「食べものはたらきを知ろう」
- ・ 4年 学級活動 「菜めし田楽とおでんについて知ろう」
- ・ 5年 家庭科 「わたしにできることをやってみよう」  
「作っておいしく食べよう」  
学級活動 「野菜を食べよう」
- ・ 6年 家庭科 「生活を見直そう」  
「楽しい食事をくふうしよう」  
学級活動 「丈夫な骨をつくろう」



#### (3) ゲストティーチャーによる食に関する指導

3年の総合的な学習の時間「地域の名物・名人」では、校区内に伝わるいくつかの伝統的な料理を地域の方より教えていただき、地域の方と児童と一緒に調理した。

#### (4) 栽培活動

スクール農園を活用し、全校がさつまいもを植えた。収穫したさつまいもは、学級ごとに調理して味わった。

##### ・調理内容

スイートポテト、茶巾しぼり、バター焼き、ふかしいも

#### (5) 児童委員会活動における取り組み

給食委員会による給食の残食を減らす取り組みとして、全校残食調べを行った。1週間（4日間）、給食委員会の児童が、配膳室で各学級の食缶の中を点検した。

- ・1回目 6月 8日（月）～11日（木）
- ・2回目 1月25日（月）～28日（木）

残食が全くない・・・・・・・・・・「◎」
残食が1～2人分くらいある・・「○」
残食が3人以上ある・・・・・・・・「△」

で表し、一覧表を配膳室前に掲示した。毎日、一覧表を確認する児童が増え、残食の減少が見られた。

#### (6) 校内掲示物による啓発活動

児童の食に対する関心を高めるため、校内に食に関する掲示物の展示を行った。その日の給食に使用する食材を展示したり、栄養や食べ物に関する掲示をしたりすることで、視覚に伝えることができ、興味、関心が高まった。



#### (7) 児童用食育図書の充実

児童の食に関する興味関心を高めるとともに、調べ学習等に活用するため、食育図書の充実を図った。

## テーマ2 学校と家庭との連携による食に関する指導の充実のための取り組み

### 〔家庭への啓発活動〕

#### (1) 親子料理教室の実施

PTA環境厚生委員会の事業として、夏休みに親子料理教室を開催した。全校に呼びかけ、申し込みのあった親子13組を対象に実施した。

日 時 平成21年8月4日（火）10時～13時

場 所 葉山東小学校 家庭科室

- 目 的
- ・簡単のできる料理の作り方を講習することで、望ましい食生活の普及を行う。
  - ・親子で調理することにより、児童・保護者の食に対する関心を高める。

- 実習献立
- ・野菜たっぷりキーマカレー
  - ・ほうれんそうのカップオムレツ
  - ・洋風ごまあえ
  - ・豆乳かん

#### 【参加者の感想】

- ・家では1食を最初から最後まで一緒に作ったことがなかったので、今日はとても楽しかった。案外子どもはなんでもできるし、頼りになることが料理の場面でも新発見できた。
- ・最初、メニューの多さにとっても不安でしたが、子どもたちと協力しながら楽しく作業ができ、貴重な体験ができた。
- ・野菜たっぷりの料理でしたが、おいしく作る事ができた。また家でもつくってみたい。



## (2) 給食試食会の開催

PTA環境厚生委員会の事業として参加を募り、希望者を対象に実施した。試食の前に栄養教諭より「家庭でできる食育について」の講話を行い、保護者の食に対する意識の高揚を図った。

日 時 平成21年12月2日(水) 11時30分～13時

場 所 葉山東小学校 会議室

### 【参加者の感想】

- ・給食を実際に食べてみることで、家庭の味付けの参考になる。
- ・今まであまり関心がなかったが、食べ物大切さを見直し、子どもの好き嫌いに左右されるのではなく、工夫して多くの食材を口にさせていきたい。
- ・おいしいので毎日食べたいと思う。野菜は薄味に感じたが、おいしく食べられる範囲だった。

## (3) PTA講演会の開催

本市では、毎週1回ミルク給食となっており、児童は家庭から弁当を持参している。保護者が短時間で、簡単に栄養バランスのとれた弁当づくりができるように、実演を交えて講演していただいた。

日 時 平成22年1月19日(火) 10時30分～12時

場 所 葉山東小学校 体育館

参加者 葉山東小学校PTA、地域の方々、市内小中学校PTA

演 題 「簡単にできる電子レンジクッキング～日本型食生活とお弁当～」

講 師 料理研究家・管理栄養士 村上祥子先生

### 【参加者の感想】

- ・電子レンジは温めることにしか使っていないので、簡単に料理ができることがわかってよかった。
- ・さっそく今週のお弁当に取り入れたい。実際にみることで、わかりやすかった。電子レンジの使い方も教えてもらってよかった。
- ・パンづくりは時間がかかるので、家でつくらなかつたが、この方法なら簡単に短時間でできるので作ろうと思う。
- ・どのお料理もすぐに実践できそうな内容だった。参加してよかった。



## (4) レシピ集の発行

簡単に作れる料理やお弁当のおかずを掲載した「くりちゃん元気いっぱいレシピ集」を作成し、市内の小学校保護者や全中学生に配布した。給食の人気メニューや、村上祥子先生から教わった簡単料理、お弁当づくりのポイントなどを掲載し、親子で食に対する関心を高めていただくための啓発資料とした。



## (5) 食育だよりによる啓発

児童が学習した内容や感想、校内での食に関する活動内容について発信した。児童、保護者を対象に実施したアンケート結果も、食育だよりを通して保護者に知らせた。

## テーマ3 学校と地域との連携による食に関する指導の充実のための取り組み

### (1) 地域の産物にふれる体験活動

「2年生たけのこ掘り活動」

日 時 平成21年4月22日(水) 9時～14時

場 所 野洲川堤防竹林、眞教寺竹林

活動の概要 地域の方の竹林を提供していただき、児童が保護者や地域の方の協力を得て、たけのこ掘りを行った。また、児童が掘ったたけのこは、すぐに自治会館において調理をしていただき、たけのこごはんやたけのこの刺身として全員でいただいた。また、掘ったたけのこを児童全員が持ち帰って家庭でも食した。

また、食育だよりを通して、家庭でどのように調理して食べたか調査したところ、下記のような回答を得られた。

たけのこごはん、さしみ、煮物、サラダ、みそ汁、はるまき、あげだしとうふのたけのこあんかけなど



## (2) 市内の食育推進

### 「市内教職員対象の食育講座開催」

栗東市教育研究所の夏期講座の一つに食育講座を新たに設け、市内幼稚園、保育園、小学校、中学校の教職員に案内し、申し込みのあった20人を対象に実施した。

日 時 平成21年8月21日(金) 10時～13時

場 所 大阪ガスッキングスクール滋賀

目 的

- ・市内幼稚園、小学校、中学校の教職員の食育に対する関心を高める。
- ・実習を通して、簡単にできる朝食メニューを学ぶ。
- ・学校園から家庭へ朝食メニューについて情報提供することにより、朝食欠食率の減少を図る。

研修内容 「バランスのとれた簡単朝食メニュー」

- ・塩鮭の混ぜごはん
- ・豚肉のピンチョス
- ・グリル野菜のサラダ
- ・お手軽みそ汁
- ・ホットロールウインナー
- ・桃のカップデザート

講 師 大阪ガスッキングスクール滋賀インストラクター



### 【参加者の感想】

- ・同じ園の職員に知らせることはもちろん、保護者だより等でレシピを紹介していきたい。
- ・簡単だけど、一工夫すれば、おいしく彩りもよくできることを教えていただいた。とてもおいしくて、美しく、食事をするのが楽しい気分になった。ぜひ、家庭科の授業でも、自分の子どもにも一緒に作って食べようと思う。
- ・朝食の必要性を感じていてもなかなかメニューを工夫することもなく、何かを食べるだけという現状だが、手軽にできて栄養満点、しかもおいしいメニューを教えていただいて、ぜひ、作ってみたいと思った。
- ・ちょっとしたお料理のコツなども交えながら丁寧に教えていただけて、とても得した気分になった。時間がなくても簡単に作れるみそ汁などは、食育の観点からもとても重宝すると思う。

## テーマ1～3に共通する具体的実施の結果

### ○ 「児童・保護者に対するアンケートの実施」

実施期間 平成22年1月25日～2月3日

対 象 葉山東小学校 全校児童・保護者

目 的 児童の生活状況や、児童・保護者への食に関する意識調査から課題を把握し、啓発活動を行う。

### 【児童の調査結果】

- ・朝食を食べている割合 100% (毎日食べる93.0% 大体食べる7.0%)
- ・栄養バランスのとれた朝食を食べている割合 46.5%
- ・給食時間がいつも楽しい、大体楽しいと答えた児童の割合 99.4%

### 【保護者の調査結果】

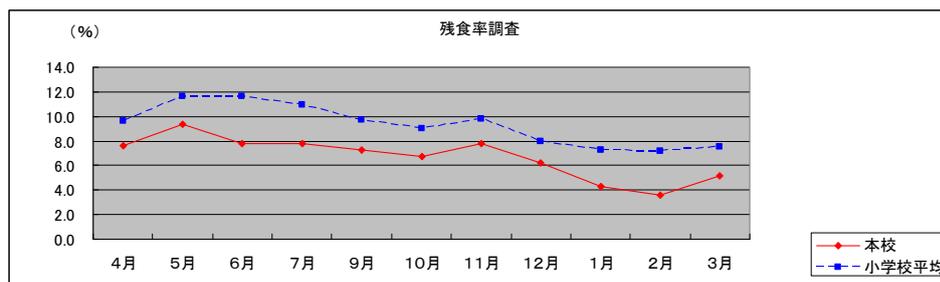
- ・食を通して子どもに身につけさせたいこととして多かった回答 食事のマナー 50.8%
- ・給食の献立表をほとんど見ていない保護者の割合 18.8%
- ・家庭で子どもと給食について話す割合 91.7%

※食育だよりを通じて、アンケート結果を保護者に知らせた。

## 数字で変化のあった事項について

### ○ 給食の残食率

4月 7.6% → 3月 5.2%



### ○ 朝食摂食率

10月 100% → 2月 100%

※10月に引き続き、2月も朝食摂食率100%を維持することができた。

## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

### 1. 学校

- ・食の専門家である栄養教諭が授業に参画することで、児童が興味をもって授業を受けることができた。また、給食時間に、授業で学んだことを活かして食べようとする姿が見受けられた。
- ・食に関する掲示物では、視覚に訴えるものを作成することで児童の関心を高めることができた。
- ・市内小学校に購入図書のリストを配布したことで各校で紙芝居などを活用したいという声が多く挙げられ、広く市内で利用してもらうことができた。このことから、市内教職員の食に対する関心が高まったことが伺える。

### 2. 家庭

- ・親子料理教室は今年度初めて取り組んだが、親子で料理をつくるきっかけづくりができた。
- ・PTA講演会やレシピ集の発行で、簡単にできる献立を保護者にわかりやすく知らせたことで、家庭でもすぐに実践してもらうことができた。保護者にも好評だった。

## 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

### 1. 学校

- 共同調理場勤務の栄養教諭が、直接食に関する指導に関わる時間は限られている。そこで、効果的な指導を行うためにも、学級担任等が指導しやすい資料提供などをしていく必要がある。
- アンケートの結果から見えた実態をもとに、校内の食育推進委員会で食に関する指導内容を検討し、児童の実態に応じた指導を行う必要がある。本校児童は、朝食摂食率は高いが、その内容を見ていると、「主食のみ」や「主食と飲み物」という食べ方が多い。今後は朝食の内容についても、改善が図られるようにしていくことが重要である。

### 2. 家庭

- アンケート結果で、給食だよりや食育だよりが参考にならないという回答が5.4%（給食だより）、3.8%（食育だより）見られた。そこで、給食だよりや食育だよりの内容を見直し、家庭での食生活の参考になる通信の作成をしていく必要がある。また、保護者の中には、配布されている通信を見ていないという回答もあったことから、一人でも多くの保護者に読んでもらえるように通信の体裁や内容を工夫するなど、さらに食に関心をもってもらえるよう働きかけていくことが大切である。

### 3. 市内の小中学校

- 市内の食育の推進については温度差がある。栄養教諭や共同調理場が関わる食に関する指導の取り組みだけでなく、各学校においても食育が推進されるよう発信していく必要がある。そのためにも、市内の食育担当の研修会や情報交換会などを開催していくことが必要だと考えられる。また、中学校との連携を図り、9年間を通して食育に取り組む体制づくりをしていきたい。